

第3章 まちの移り変わり

【道具と暮らしの移り変わりを調べよう】



木古内町には「いかりん館」という郷土資料館があります。ここでは、展示されているものについてしょうかいします。

（１）土から見つかった道具や生活のあと

木古内町で、1万4千年以上前の生活のあとが見つかっています。土にうまっていた黒い石は、遠くから運ばれてきたもので、今でもするどくとがっています。何に使ったものでしょうか。

しら調べる

道具を通して、暮らしはどのように変わってきたのでしょうか。



2千年以上も前、人は田畑を作らず、山や海で採ってきたものを食べる生活をしていました。そのころ、煮炊きに使われていた「縄文土器」などを、いかりん館で見ることができます。これらは、木古内町の中で見つかったものです。

第3章 まちの移り変わり



江戸時代に使われていた生活道具



農業用の器械

(2) 昔使っていたけれど、もう使わなくなった道具

いかりん館では、昔の暮らしの中で使われていた、今ではあまり見かけなくなった道具を展示しています。家庭で使っていた道具のほか、農業・林業・漁業・工業・交通（鉄道）など、仕事で使われていた道具もあります。

みなさんが使っている、電気・ガス・水道などがなかった時代、どのようなものが使われていたのかを考えてみましょう。



電気が今なくなったら困りますが、昔の人が電気の代わりに何を使っていたのか、気になります。



昔の人の道具には、使う方法がわからないものもありそうです。

言葉

道具



私たちは、昔も今も、毎日の暮らしの中でたくさんの道具を使っています。道具は、暮らしをより良くしようとする人々の願いとともに変わってきました。

いかりん館は、2011（平成23）年まで使われた、鶴岡小学校の校舎を利用しています。鶴岡小学校の教室のテレビなど、昔の小学校の様子がそのまま残されているところもあります。

第3章 まちの移り変わり

さんこう
参り
しり
資料



縄文時代の土偶



旧石器時代に道具を作ったあと



武士の使ったよろい



漁で使っていた道具



網が沈まないようにするための浮き



昔の電話機の移り変わり



消防のための道具



鉄道資料

第3章 まちの移り変わり

【木古内町と咸臨丸】



咸臨丸のものと思われるいかりの展示



咸臨丸のものと思われるいかり

咸臨丸は、日本で武士の時代が終わり、アメリカ合衆国やヨーロッパの知識を取り入れようとしたころに使われた船です。1871（明治4）年、函館から小樽に向けて、401人を乗せ出発した咸臨丸は暴風のため、木古内のサラキ岬沖で岩に乗り上げ、動けなくなりました。当時は、泉沢の人たちが中心となり、救助にあたりました。当時の救助活動を想像してみよう。

1984（昭和59）年にダイバーによってサラキ岬沖で発見された、このいかりは、咸臨丸のものだろうと言われています。



咸臨丸は、日本の歴史の中でも、大切な意味をもつ船の一つなのです。



木古内町では、毎年8月に「きこない咸臨丸まつり」が開かれます。

第3章 まちの移り変わり

【まちの移り変わりを年表にまとめよう】



江戸時代の道具



昭和初期の町の地図



平成時代に江差線廃線

まちの移り変わりを調べるのが学習の目的でした。次は、「木古内町のあゆみ」などを参考にして、みんなが調べた木古内町の移り変わりを、年表にまとめてみましょう。



年表って、大まかに言うと木古内町で起こったことを古い順に並べたものですね。



いかりん館では、古い時代の木古内の生活や使われた道具について説明をしています。



学びの手引き

年表を作る 年表の作り方

- ・一番上に横じくを作り、左から右に古い順に並べ、右のはしを今にする。
- ・元号を使って、何年ごろかを書きこむ。
- ・調べてきた項目ごとに変化がわかるようにまとめる。



まとめる

まちの移り変わりについて調べてきたことを、年表にまとめてみましょう。

学びのポイント

調べたことを振り返り、北海道の特色を話し合おう。

話し合ったことをもとに、北海道の特色についてまとめたパンフレットを作ろう。

まとめの活動に言葉を生かそう

- ・人口・時期の区分
- ・鉄道・道具

第3章 まちの移り変わり

【まちの発展を目指すポスターを作ろう】



2016（平成28）年 北海道新幹線木古内駅開業

社会科の勉強では、まちの移り変わりについて、学んできました。学んだことをもとにして、木古内町がどのようなになっていけば良いのかを考え、まちの発展を願うポスターを作ってみましょう。



どんな発展を目指すか、はっきりわかるメッセージを作りたいです。目標がわかる絵を描くといいかな。



交通が便利なまちである、木古内町の良いところを伸ばしたい。昔にくらべて、生活が便利になったことが、いくつもあります。



まちのホームページには、まちがこれから目指そうとしていることが書いてあるのではないのでしょうか。